

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和8年1月16日（金）

2 確認箇所

- ・ 1号機原子炉建屋北側及び西側（図1）
- ・ 伐採木一時保管エリアT（図1）

3 確認項目

- (1) 1号機大型カバー付帯設備設置の状況
- (2) 伐採木一時保管エリアTの保管管理状況

4 確認結果の概要

(1) 1号機大型カバー付帯設備設置の状況

1号機使用済燃料プールには計392体の燃料が貯蔵されている。より安定した冷却・貯蔵が可能となる共用プールへの搬出に向けて、燃料取り出しが実施される。

燃料取り出しに先立ち、原子炉建屋を覆う大型カバーを設置し、大型カバー内でガレキ撤去、オペレーティングフロアの除染・遮へいを実施し、燃料取扱設備（燃料取扱機、クレーン）が設置される計画である。

1月19日に大型カバーの設置が完了し、また、1月末日までにガレキ撤去用天井クレーンの運搬・設置を完了、その後、試運転調整を経て、2月中旬頃の落成検査が予定されている。

現在、大型カバー設置後におけるガレキ撤去等に向けて、大型カバー付帯設備（換気設備、ダスト放射線モニタ設備他で構成）が設置されているので、本日は、その状況を確認した。

- ・ 換気設備のダクト、ダクトサポート、ケーブルの設置が進められていた。（写真1）
- ・ 換気設備のヤード電気品室で機器設置作業が進められていた。（写真2）
- ・ ダスト放射線モニタ用の新設コンテナ2基が据え付けられていた。（写真3）
- ・ 新設コンテナ内には、ダスト放射線モニタが設置されていた。（写真4）

(2) 伐採木一時保管エリアTの保管管理状況

東京電力では、屋外で一時保管されている瓦礫等の固体廃棄物を屋内保管へ移行し、屋外の瓦礫等一時保管エリアを解消することを中長期ロードマップの目標工程^{*1}としている。また、これらの一環として、伐採木一時保管エリアT（以下「エリアT」という。）に設置されている伐採木一

時保管槽^{※2}（以下「一時保管槽」という。）から保管されている枝葉チップを取り出し、増設雑固体廃棄物焼却設備で焼却することも計画されており、今後試験的な取り出しが予定されていることから、本日は、エリアTの保管及び管理状況を確認した。（前回確認日：令和7年6月10日）

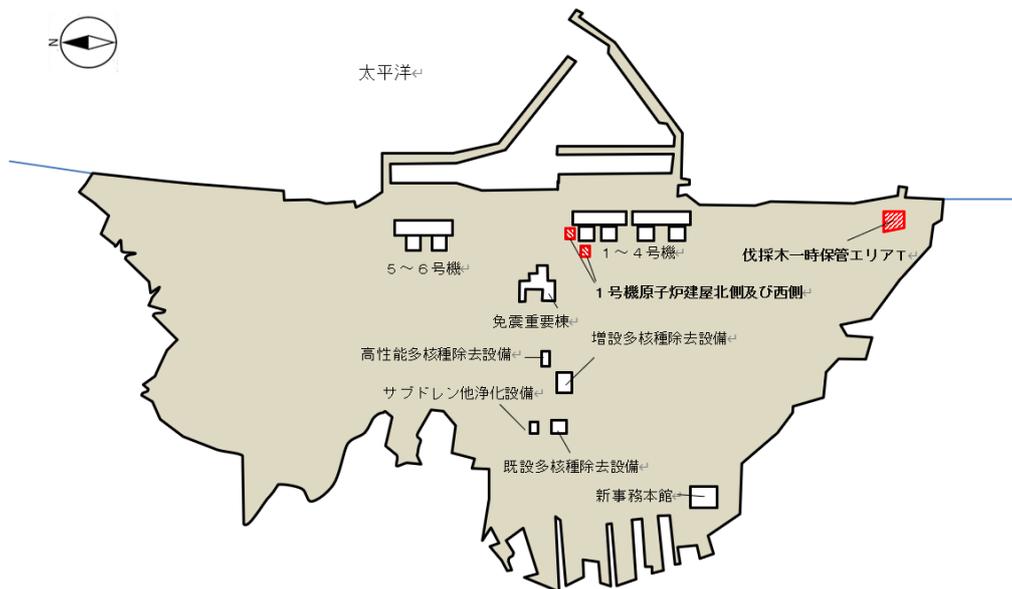
- ・ エリアT内の一時的保管槽の状況は、前回確認時からの変化は認められなかった。一部の一時的保管槽では、枝葉チップの腐食の進行に伴うと見られるシートの窪みが見られたものの、確認した範囲で内容物の飛散や流出は見られなかった。（写真5、6）
- ・ 各保管槽には温度計が2つつ設置されており、東側と西側において計測している。前回（令和7年6月10日）確認した際と比較して、当該温度に顕著な変化は確認されなかった。

※1 中長期ロードマップの目標工程

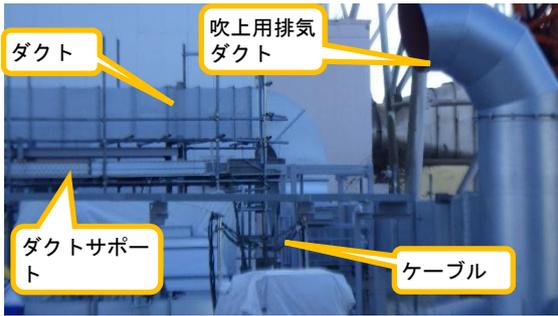
中長期ロードマップ（2019年12月27日改訂）」において、「2028年度（令和10年度）までに、水処理二次廃棄物及び再利用・再使用対象を除く全ての固体廃棄物（伐採木、瓦礫類、汚染土、使用済保護衣等）の屋外保管を解消し、作業員の被ばく等のリスク低減を図る。」ことを目標工程として明記している。

※2 伐採木一時保管槽

伐採木のうちの枝葉を減容（チップ化）して一時保管する施設であり、擁壁または築堤で保管槽を設置し、枝葉を充填後、保護シート＋覆土＋遮水シートで覆い防火対策や線量低減対策を講じたもの。伐採木一時保管エリアG及びTに設置されている。



（図1）福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1) 換気設備ダクト等



(写真2) 換気設備ヤード電気品室での作業状況



(写真3) ダスト放射線モニタ用の新設コンテナの外観



(写真4) ダスト放射線モニタ用の新設コンテナ内の状況



(写真5) エリアTにおける伐採木の保管状況



(写真6) くぼみに溜まった雨水

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常値は確認されなかった。